

ちよび

10月号
vol. 080

ちよびブック
「西成で働くママとパパたち」

特集：都市のインフラ

人と人の
つながり関係
vol. 03

人とゴミとの ふか〜い関係

vol.03

「みんなでやっつけていこう」で
エコなミライへ

恩師財団済生会理事長であり、ソーシャルファームジャパン代表でもある炭谷さんの講演でよく耳にする「エコミラ江東」。

それは、一言でいえば、江東区民の家庭ゴミのうち、発泡スチロールや容器トレイのプラスチックリサイクル業務を知的障がい者が担う取り組みのことだ。この話を聞いたたびに、行政が建設した施設で、行政からの業務委託か、あるいは大きな企業の特例子会社かなにかで運営しているのだろうと想像していた。潤沢な税収や企業のバックアップが見込める東京だからこそ、できる取り組みだと。

でも、予想は外れた。確かにバックアップはあったが、行政頼りでもなく、運営する法人だけでもない、「行政」「企業」「地域」が、環境と福祉をテーマに、それぞれができることを持ち寄る「やっつけていこう型」の取り組みだった。

お世辞にも運営するNPO法人地球船クラブは、障がい者就労支援の専門家とはいえないが、「提案」だけでなく、「実践」の旗振り役として動いたことが、機をとらえ環境福祉事業の「エコミラ江東」を実現させた。そんな地球船クラブ・エコミラ江東事務局長の鳥海さんに話を聞いた。

※エコミラ江東…東京都江東区とNPO法人地球船クラブが協働で進める社会福祉リサイクル事業。障がい者雇用の輪、区民リサイクルの輪を広げる福祉エコロジーの取り組みとして注目される。
NPO法人地球船クラブ「エコミラ江東」
135-0052 東京都江東区潮見1-29-7
<http://www.chikyusen.org/ekomira/>



再生後のリサイクル燃料（ペレット）



障がい者スタッフの分別作業



巨大なペレット製造機



区民が分別したプラスチックゴミ

ゴミの島から

お金はない。

エコミラ江東はスタートして4年目。江東区のゴミ焼却場の中にある。すぐそばには、「夢の島公園」や「辰巳の森海浜公園」など緑があふれ、埋め立て処分場で「ゴミの島」と呼ばれた、かつての面影はない。

エコミラ江東を運営するNPO法人地球船クラブは、2006年に「自然との共生」をミッションに掲げた環境問題に取り組む非営利団体で、社会福祉や障がい者雇用とは縁遠い。実際に、過去の取組を見ても環境に関するセミナーやシンポジウムが多い。理事や顧問にも環境問題の専門家や学者、政治家などそうそうたるメンバーが顔をそろえている。

そんな地球船クラブがエコミラ江東をはじめたきっかけは2008年。それまで埋め立てられていた廃プラスチックのリサイクルに東京都・江東区が取り組むと決めた時、法人として啓発や提言だけでなく、自らリサイクル事業を実践しようと動き出した。

区がリサイクルに取り組むと決めたからには、建設費や運営費は行政が用意すると考えていたが、期待は見事に裏切られる。区からは「そんな予算はない」と回答をうけた。試算すると、建設費と設備費は2億1千万円が必要であることがわかった。地代は不要だったが、法人にもそんなお金はない。協力企業を募りながらも、区と1年間協議を続けた。

その過程で、中高年齢の障がい者が解雇され、再び「福祉」に帰らざるを得ない状況に江東区が問題意識を持つていたことを知った。そこで「長く勤められる障がい者の働く場づくり」にもチャレンジし、公益をより追求することを決めた。そして、行政事業の一部であることや環境CSRが世間で注目されていたことから、トレイ製造メーカー1等の3社が建設・設備費の2億1千万円を融資・貸与してくれることになった。

3社にとっては築地から豊洲への中央卸売市場の移転という、大きなチャンス(*)を見据えた将来への投資という側面もあるだろうが、現在も機器メンテナンス費用やスタッフ出向費用など多大な応援で事業を支えている。

はじめての障がい者雇用から始まる理解

税金・制度を使わずに知的障がい者を雇用しようと決めたものの、工場作業の専門家が多くの福祉の専門家はいない。地域の作業所に声をかけ、優秀な障がい者スタッフを採用したが、思うように作業ははかどらなかつた。

作業は単純。各家庭から集められてきた発泡スチロールのトレイを「白」と「ガラ」に分別する作業。「白」はその名の通り真っ白なトレイ、少しでも色・ガラの入ったトレイは「ガラ」。汚れたトレイや紙などの異物が混入すると、リサイクル後

の商品の質が大きく落ちるので、分別作業で取り除く。後は、象のような巨大機械がトレイをどんどん吸い取り、ゴミが800、100円/kgのリサイクル燃料(ペレット)に変わる。

単純な作業のようだが、分別というリサイクル作業の一番大切な部分を障がい者が担っている。でも、なかなか思うように、作業は終わらない。そこから試行錯誤が始まった。

当たり前のように8時間の労働時間を設定していたが、5時間を超えると効率が大きく落ちることに気づき、6時間雇用をベースに変えた。

効率の良い職場環境を創ろうと、作業フローをその都度その都度変えていたが、そのたびに効率が悪くなり、作業効率を上げるには、作業への「慣れ」が必要であることを知った。一方で、当初は業務を間に合わせるために雇った学生バイトは仕事への「慣れ」が「飽き」に変わり、効率が悪くなることもわかった。

それ以降は、学生バイトに頼らず、熟練度が上がると1日の

目標である800kgの処理を知的障がい者スタッフだけで17時まで間に合うようになり、3年目には15時に終わることも珍しくなくなった。売上は1700万円/年を超え、当初の

目標である月20tの処理もコンスタントにこなせるようになった。いまでは、最低賃金850円/時をスタッフに払い、11人の障がい者スタッフのうち2人は、退職した親を扶養している。

リサイクルは住民と一緒に

作業効率の向上はもちろんだが、家庭ゴミのプラスチックリサイクルで、最も効率的なのはゴミの排出時に、住民がトレイを洗浄し、しっかりと分別すること。つまり、住民への啓発と理解、住民の参加が鍵になる。

環境福祉事業に取り組む話題として、各メディアにエコミラ

江東区が取り上げられたり、江東区の下町気質にも支えられながら、3年間で分別回収されるトレイの質は大きく向上した。地球船クラブもこれまでの環境学習のノウハウを活用し、小学校4年の社会見学を受け入れ、「環境リサイクル」と「福祉」障

がい者の「働く姿」に触れる機会を積極的に提供している。また、障がい者を雇用する際に地域の障がい者団体からの推薦を受けたことがきっかけとなり、「交流」をテーマに障がい者団体や企業と連携したイベントを年に1度は開催している。

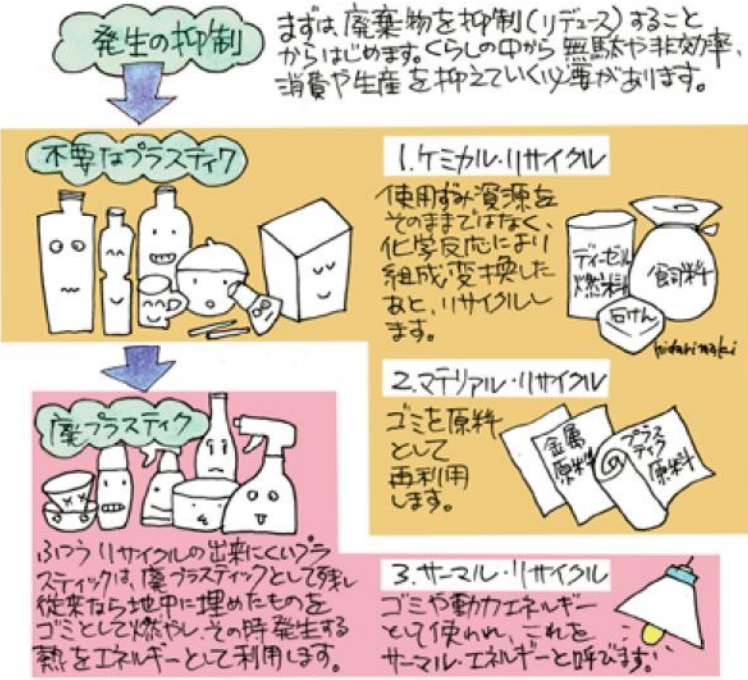
取材後記

最後に、同様の取り組みが他区に広がる可能性を質問すると、「相談を受けることはあるが、ゴミ処理施設建設へのコンフリクト」が別々に協力する住民の有無が大きな壁となり実現していない」とのこと。

環境福祉事業に取り組もうと動き始めた地球船クラブの決意だけでなく、ゴミの島の経験と下町コミュニティを残す江東区のこれまでの営みの1つの形として実現したのが「エコミラ江東」であったということが印象に残った。

(田岡)

*現在の築地市場が江東区内(豊洲)に移転(予定)することに伴い、卸売市場より大量に出される発泡スチロールなどのリサイクルを担える可能性があるため



[平川隆啓] エコミラ江東にはばくも行ってきました。ゴミ関連の現場は昨年までほぼ経験なかったけど、こうやっているのを見て歩くことも大切だな。



サウスオブミナミ

vol.07

「暮らしのすぐそばに商店街」
西成区南部編

西天下茶屋界隈の商店街

ローカルな汐見橋線にゆられて西天下茶屋駅を降りると、そこからぐねぐねと商店街が続いています。まっすぐな商店街が多いなか、ここはまちのカタチに合わせてジグザグに。その角の先にはどんなお店があるかな？

西天商店会・西天駅前商店会・銀座商店街・中央通商店会・南本通商店会・岸里新聞通商店会 他

前回に引き続き、商店街特集！商店街の成り立ちもいろいろ。市場に併設された商店街や、駅から延びるようにつくられた商店街、まちとまちを結ぶ商店街など、それぞれの地域を物語っています。

お散歩して、お買い物して、ぶらぶらいつもと違った目線で商店街を満喫してみよう！

天下茶屋・梅南界隈の商店街

天下茶屋駅から延びる商店街は多くの方が行き交います。阪堺線近くには、駄菓子屋や本屋など子どもが楽しめそうなお店も発見！梅南界隈は、住宅街に延びる商店街。大衆演劇の劇場もあります！

天下茶屋商店街・天下茶屋駅前商店街・天下茶屋駅筋商店街・天友会・天三商店会・梅南通栄商店街 他

玉出・岸里界隈の商店街

市場あり！南海に地下鉄、阪堺線の駅もすぐそば！玉出・岸里界隈は縦横に商店街がはっています。周りにはなにわ伝統野菜の勝間(こつま)南瓜や祭で有名な「だいがく」でも知られる行根神社があるなど歴史豊かな地域です。

玉出本通商店街・玉出北商店会・玉二商店街・玉出東商店街・岸里本通商店会・千本通商店街 他

みんなも身近な商店街をいつもと違った目線で探検してみよう！



リト+トーク No.07

「西成ではたらくママとパパたち」

プロフィール



熊谷真由美
三人のお子さんのお母さん。身近にアードがあったらもっと豊かな気持ちになるという思いを胸に、大好きな作品たちをみなさんに伝えるお手伝いをしています。



清家厚仁
小学5年生の男の子、1年生と3歳の女の子二人のパパ。楽器屋さんの三代目として、西成の福祉施設で音楽演奏のお手伝いをされています。

今回は、ホストの熊谷さんと、西成から上町台地をちょっとあがったところに先日オープンしたギャラリー+アートスペース「あべのま」でお話していただきました。ゲストは、楽器屋を営む清家厚仁さん。初対面のお二人で、子どもへの接し方や地域とのつながりについてお話していただきました。

熊谷：うちは反抗期があんまりなかったんです。反抗することがなかったのかな？親がゆるいから。親の方が反抗してました(笑)

清家：あ、でもその作戦は僕も取ってます。僕がポケテアホなことしたら、子どもはツッコミにまわってしっかりしよるんです。一方、嫁は教員で、僕とは真逆の感性なんですよ。

熊谷：お子さんは何か楽器やってるんですか？

清家：上の子はピアノと歌とドラム、真ん中の子はピアノとダンスを習ってます。無理にという訳じゃなくて、「いつでもやめていいやで」って言うてるんですけどね。

熊谷：でも、嫌がらずにやってます？本当は「やめていい」なんて思っていないんじゃないかな。

清家：いや、僕は本当に思ってるんですけどね(笑)。

熊谷：うちの長男は芸大で版画をやっているけど、アンティークだったりギャラリーという環境があったからというよりは、いわゆる勉強が嫌いだったんやと思います。夫が最近になって作品を作るようになったけど、これは環境の影響かな。

清家：環境とか、遺伝とかってあるかもしれませんがね。うちの子がピアノの練習をしないのは僕ゆずりかも。

熊谷：釜ヶ崎で「釜ヶ崎芸術大学」がまた始まりましたね。芸大と言っているけど、音楽や表現だけじゃなくて、天文

学や哲学とかもやってるんですよ。前回参加して、音楽をみんなで即興で演奏しているのを聴いて、本来の音楽ってこれなんやなって思いました。

清家：「釜芸大」初めて知りました。僕も西成の施設で、障がいがある人たちと音楽をするんですが、すごく一生懸命で伝わってくるんです。泣けるくらいに。

熊谷：「釜芸大」はいろんなジャンルがあるから、ライブ感があってなかなかおもしろいですよ。息子に「芸大行かん？と釜芸大へ行ったら？」って言うくらい。よっぽど勉強になるんちゃうかなって。

熊谷：たまに、子どもに「自分のやりたい道を、自分で選びなさい」というのって、意外と残酷なんかなって思うときがあります。「好きなことしていいねん」と言われるより、「こうしなさい」の方が楽かもって。

清家：でも、「言われてやったら失敗した」ってなるのも困るしね。できれば、自分で考えてやってみた方が、納得できるかなって思うんですよ。長男には「どうやって生きていくの？」って言っています。本人が家業を継ぎたいって言ったら「いいよ」って言うけど、本人ができひんなんて思っていたら「無理」ってきちんと言おうと決めています。僕も家業を継ぐとき、呼ばれたから帰って、もし嫌になったときには親のせいにするやろうなって悩んだときがありました。だから、子どもたちには自分のやりたいことを頑張ってもらいたい。一代目は、孫に「この会社はお前のものになるんや」って言ってますけどね。(笑)

今回はホストを清家さんへバトンタッチ！



高橋静香 阿倍野にギャラリー+アートスペースをオープンしました。坂を下ると、すぐ西成。お近くの際はぜひ遊びにきてください。あべのま：http://abenoma.com



飯田沙保里 なびトークで、釜芸の話を持ちました。とても面白かったので、機会があれば参加してみようと思います！

い湯かげん

「改革を競う」のが大阪らしい

この拙文を、9月29日堺市長選挙投票日、その日に書いています。開票と同時に竹山さんの当選が決まり、翌日から、大阪は騒々しくなる。

『なび』でも何度も書いてきたが、ボクは、①橋下改革には概ね賛成で、「ポピュリズム」「独裁的」「ハシズム」との批判は、あまりに保守的で、「一種「橋下差別」だとさえ思ってきた。時折の舌禍も、河島英五に倣って「生意気ぐらいがちようど良い」と寛容を決めてきた。しかし、②橋下さんは福祉が「苦手」なようで、改革が連続しないのが気になっていった。そのせいなのか、③大阪都構想は、大阪府や堺市を解体するが、特別区の政策予算は抑制

される「大阪市ホールディング構想」に見えて、急ぐなれと思ってきた。

そもそもボクは、反橋下の側に居を構える身だから、遠慮しながらこう言ってきた。①保守の立場から橋下批判を繰り返すと、市民はかえって橋下支持に回り、橋下さんも右に行く(日本維新がそうだった)。②ボクの自省も含めて、労働運動や社会運動が行政の非効率や硬直化に加担したのは事実で、刷新を怠り「左の保守」に奔ると傷口を広げる。③「大阪都構想」にこだわりすぎると、未来の改革の目的から外れてしまい、結局は橋下さんも保守も、すべてが「共倒れ」に終わってしまう。争点は「改革競争」で、

それ故に、労働運動や社会運動にも出番がある。良いか悪いかではなく、市労連は公共現場を握ってきたのだから、身を切る改革を提案できる。解放運動も同和行政で公共に深く関与してきたのだから、行政依存から脱却し、「新たな公共」を提案できる。障害者運動等もホームレス支援も社会福祉法人も、それなりのポジションを持つべきだ、それが大阪だ。運動体の悪い面が噴出して、橋下さんうまく利用されたが、運動体の良い面をもっと活かしていければ、市民は見直してくれる(そう思いながら、時間だけが過ぎてしまっている)。

平松さんの「市民協働」は良いと思っただし、西成特区構想は先駆けだと思っただし。ボクも微力だが、公共サービスで「福祉を興す」と、総合評価入札や公契約条例に奔ったし、市民交流センターを互助で再生できないかと動いた。ボクは、橋下さんが外から改革に着手してくれたから、いろいろ好き嫌いはあるだろうけど、

橋下さんに呼応するように、内から改革の旗を掲げたら良い、そう思ってきた。竹山さんがよく踏ん張ってくれた。負けてたら、橋下さんも振り上げた拳を下せないところだった。自民党から共産党まで、「無茶するな」で一致したのだから、舞台を変えて改革競争に励む時だ。さしあたり、ボクは、家庭ゴミ収集をただの民営化ではなく、「新たな公共」を創り出すプロジェクトとして、ちょっとでも参画したいと思う。ずっと昔、大阪市の社会事業が、今日の礎を創ったこと、しかし、戦争に呑み込まれてしまったことを思い出しながら。



楠ナイス代表取締役 冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



四井恵介 いつもバチギリギリでハラハラしています。秋になり忙しい時期に入りますが、気持ちにゆとりを持ち続けられますように。

学びたいひと、
この指とまれ!

この写真は大学のひとコマ。あれって思いました? 大学って聞いて浮かぶのは、おしゃれなキャンパスに若い学生たち、不思議な研究室や、広い講義室など。ところが、この大学は大きなキャンパスも立派な設備もありません。やりたいこと、学びたいことが集まり、自由に青空感覚で学べるとてもシンプルな大学、それが釜ヶ崎芸術大学です。でも中身は刺激的。今回はインドネシアの楽器ガムランを協力しながら奏で、遠い国の雰囲気になんて浸りました。

文：平川隆啓／写真：高橋静香



※釜ヶ崎芸術大学については「にしなりカレンダー」もご覧ください。

ピースのつばやき



「スマホでピース」

ピースと呼ばれてふりむくと携帯片手のお母さんがいた。ハイチーズと声かけられて私は戸惑った。ピースと呼ばれるふりむくと携帯片手のお母さんがいた。レンズに追いつけられて私は体が固まった。

つい最近、私のお母さんは新型の携帯を買ったらしい。どうやらその携帯で、私の写真や動画をひそかに撮影しているみたい。

ほんとうは私、携帯に見つめられちよっと恥かしい気持ち。でも、その携帯に私の姿が永遠に残るのはそれ以上に嬉しい気持ちです。お母さん、かわいく思い出残してねワンワン!!

赤井まゆみ

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

枝葉末節

才蔵さん その4



hidarimaki こ佐々木です。
東北震災「日本がんばれ」
東京五輪「日本がんばれ」
またまたがんばる熱狂再来
災害スポーツいつもがんばれ
あんたらいつまでがんばねん。

紀ノ川、吉野川流域の河川調査にまつわる話を続けたい。

2000年1月末、大阪市内にある環境団体に属する知人から紹介されていた絵本作家の松下千恵さんに会った。松下さんは和歌山市内在住で、「わかやま絵本の会」の代表者でもあった。その時の松下さんの話だ。

「和歌山は鹿児島と同様、本の売れないワースト地域。出版社もないので自分で出版しよう」と計画したのが15年前(84年)でした。ちなみに私が松下さんにこの取材をしたのは、今から十数年前のことなので、現在の和歌山や鹿児島は出版事情は当時と異なっているかもしれない。そのころ創作作家は20人。160人の会員(読者)がいて、年間4冊の出版を予定して

いた。ただ、会の台所事情に余裕はなく、自転車操業の体であったという。

『役の行者』『熊野古道』『華岡青洲』『南方熊楠』などのタイトルにみられるように、和歌山をテーマとしたものが多く、これまで70冊を出版してきました。地域の子どもたちが、自分たちの地域や名前を誇れるようにと、土着カルタなども作ってきました。子どもたちがカルタのルールなどを作り、子どもカルタネットワークが広がっているみたい」とカルタ絵を普及させた当時の松下さんは喜んでいました。

脆弱な出版文化の地を自分たちで耕し、地域の資源を活かし、子どもたちの視線を忘れない松下さんたちの奮闘は、まさに紀ノ川の堂々たる悠久さと、木の国ともいわれる紀州の山深く分け入る森林の野太さをイメージさせた。私自身、過去に絵本を描いていたこともあり松下さんの志に共感した。だから松下さんに大畑才蔵の話をした時、彼女もいつの日か才蔵さんの絵本を描いてみたいと言っていたことを思い出す。しかし昨年、松下さんの訃報が届いた。これからはという若さで「わかやま絵本の会」の牽引力が逝ってしまった。

才蔵さんは現在の橋本市学文路

の出身で、庄屋として人望を集めた。数学の才能に秀で土木事業に関心があがり、紀州藩から仕官の命があったのは彼が55才という高齢の折である。

豊かな水流を持つ紀ノ川だが、当時は河川から水を取り入れ、農業用水として利用することが出来ず、流域はやせた畑地と慢性的な水不足に甘んじていた。才蔵さんは紀州藩の藩命を受け、堰を作り長大な用水路を実現し、紀州の北部に水田を完成させて農業の繁栄をもたらした。とくに元禄13(1700)年に始まる藤崎井、及び宝永4(1707)年の小田井に代表される堰や農業用水路は、才蔵が考案した手製の測量器(水盛台のみずもりだい)で測量された。才蔵さんが使った測量道具の模型や、実際に使ったコンパスなどの工具などが、現在

も「橋本市郷土資料館」(写真)で見ることができる。才蔵さんはいくつかの著書を残すが、その



も「橋本市郷土資料館」(写真)で見ることができる。才蔵さんはいくつかの著書を残すが、その

中で「若き内の油断つもりで借銭にひかれ老後の苦みと成也。せめて子孫の為に成共と親の教えを伝え、身を立、家をおこす種ともなれかしと取り集めたる作業の品々をかき集るものなり」(日本農書全集28「地方の聞書」/農文協刊)とある。若い時の身勝手な振る舞いは、借財などに負われて老後の苦勞を送る結果となる。私は親の教えを伝え、自立した暮らしを立てられるヒントをここで書き記しておきたい、という意味だ。農業を継ぐ者たちへの農業経営や技術、田畑の石高の決め方、土木工事の心得、日雇い労働の賃金算定、人としての大切なことなど多岐にわたる地方(※)を担う次世代に提言している。

大正年間、農民の手で大畑才蔵の業績をたたえ頌功碑(しようこうひ)が建設されたという。それは、後世の多くの農民のために用水路を残した功績であり、名声や報酬ではなく、常に誰の為に何をなすべきかを考えていた職人大畑才蔵への感謝碑でもあったと思う。彼の土木技術としての業績は、今も農業用水路としてそのまま活用され、現代の専門家も舌をまくほどの工法であるといわれている。

※地方=農村の意。土地や租税制度など農政全般をいう。「町方」の反意。

思ったら! にしなりカレンダー

地域の歴史・文化に触れるアート

「天下茶屋」は、太閤秀吉が千利休に茶をたてさせた茶の湯文化ゆかりの地。今回は茶道でお皿代わりに用いる「懐紙」をキャンパスに、スイーツと紙との新しい関係を19人の作家が探ります。
※会期中、あしたの箱茶会「Tea Harmony」もあります!

「菓子と懐紙展」 ～ sweets on the paper ～

日時: 10月12日(土)～20日(日)
13:00 - 19:00 (最終日 19:00 まで) 会期中無休
場所: ギャラリー あしたの箱
西成区岸里東1-6-7 tel: 06-6659-8892
web: <http://www.ashitanohako.com>

秋に地域を盛り上げるイベント

いじめ撲滅まちづくりとして、プロレスリングや、ステージ、屋台やかえっこパザール、講演会など盛りだくさんのチャリティ・イベントを開催!

「いじめ撲滅プロジェクト」 in チャリティ・プロレスリング

日時: 10月20日(金) 10:00 - 15:00
場所: 鶴見橋中学校 (西成区長橋 3-9-23)
長橋3公園 (鶴見橋中学校北側)
参加無料: 高校生以下 無料・大人協力金 500円より
申込不要 (※プロレスリングの当日整理券は 10:00
より先着 120名で配布)
お問い合わせ: 市民交流センターにしなり
tel: 06-6561-0007 fax: 06-6561-9154

秋にいろんな体験を学ぶ自由大学

「学びたい人が集まれば、そこが大学になる」と2011年の6月に、カマン!メディアセンターで開校した「釜ヶ崎大学」。芸術をめぐるさまざまなことを学びあえます!

「釜ヶ崎芸術大学」

日程: 10月11・12・13・19・21・25・28・31日他、
2014年3月まで
※毎回、会場・時間・内容等は異なります。
詳細のプログラムはwebなどをご覧ください。
参加費: 無料・カンパ歓迎
お問い合わせ: ココルーム
tel/fax: 06-6636-1612
mail: info@cocoroom.org
web: <http://kama-media.org/japanese/geidai2013/>

10月といえばハロウィン?

西成をちょっと東へいったところにある下町「昭和町」で、「はろういん」イベントを開催! バスポート購入で飲食店などの参加店舗のうれしい特典をゲット? 詳しくはwebで!

「下町はろういん@昭和町」

日時: 10月25日(金)
場所: 地下鉄昭和町駅界隈
お問い合わせ: 下町はろういん@昭和町実行委員会
mail: showacho@cr-assist.co.jp
web: <http://bar.showacho.jp/>

あとがき

秋の夜長とはいいますが、9月19日の中秋の名月は澄んだ空に凜としていてきれかった。日暮れの早さだけでなく、灯りの乏しい時代は、秋は月明かりを楽しんでいたのでしょうか。

台風18号では運用がスタートしたばかりの「特別警報」が全国各地で発令されていましたが、異常なのは天候だけでなく、僕たちの急激な暮らしの変化もあるかもしれません。

(田岡)

なび10月号(vol.80)
発行日: 2013年10月10日(創刊日: 2007年1月1日)
発行: 株式会社ナイス
発行人: 代表取締役 冨田一幸
印刷: 有限会社前山企広
住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156
E-mail: info@nice.ne.jp url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長: 佐々木敏明
編集・表紙写真撮影: 田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト: hidarimaki デザイン: 高橋静香
(表紙の写真は「上町台地の階段(共立通)」で撮影しました。)